

第 26 回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成 31 年 1 月 24 日(木)9:30～10:30
- 場所：中央合同庁舎 8 号館 10 階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：政府組織のデジタル化とその環境整備
- 招へい者：種子野亮 ヴイエムウェア株式会社 デジタルトランスフォーメーション推進室長
- 出席者：平井国務大臣、幸田内閣府審議官、三輪 CIO、時澤副 CIO、住田知財事務局長、行松審議官(宇宙)、柴崎参事官(IT)、奥田参事官(IT)、吉川参事官(科技)、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 種子野室長からの説明

- 政府や企業におけるこれまでのIT部門の役割は、事業部門からの要望を受け、自動化等による生産性向上の取組といった既存のビジネスモデルに対する間接的な貢献が主であったが、今後は、顧客とのコミュニケーションに、より直接的な関与が必要なほか、新たなビジネスモデル構築のためのインキュベーション機能が求められる。そのために必要な考え方がサービスやエコシステムに対するデザイン思考である。
- 上記の概念を含むデジタル・トランスフォーメーション(DX)を実現に導くためには、3つの“D”(Design, Data, Development)をリードするチーフ・デジタル・オフィサー(CDO)を中心とした、デジタル・ネイティブ時代の若手を起用した人材育成・活用の取組が不可欠である。
- よって、DX とは単なる IT 化ではない。政府調達も CDO が関与した形で、顧客・利用者視点、デザイン中心、テクノロジー起点の考え方のもと、「省庁横断・ワンストップ型」で行われるべき。

3. 質疑応答・議論

- DX 時代のIT部門が、サービスデザイン思考を持つためには、事業部門からの要件定義をそのまま受け入れるのではなく、なぜそのシステムを作るのかを追求し、(これまでは事業部門が中心となって実施していた)サービス利用者に対するインタビューなども自ら率先して実施し、失敗を恐れずどんどん新たな分野にチャレンジしていくことが必要である、との意見があった。
- 旧来型(レガシー)のシステムにある情報を公開するに当たっては、すべての情報をそのまま移行・公開することは適当ではなく、利用者目線で真に移行すべき部分を見極め、場合によってはレガシーから必要に応じてデータを抽出できるようになれば差し支えないのではないか、との意見があった。
- 今後のIT人材の育成・確保に当たっては、若い人にとって魅力的なキャリアパスを作りつつ、民間・役所に関わらず、IT分野に身を置いている人は自分の後継者を作る、とのミッションを持つべきではないか、との意見があった。
- 政府 IT 調達の考え方を旧来の PDCA サイクルから、OODA(Observe, Orient, Decision, Action)に変えるべき、との意見もあった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)